

リサイクル率向上による産業廃棄物の削減と再資源化を行う

兵庫県神崎郡市川町屋形 × 株式会社アルファ


取組概要

主に産業廃棄物の中のプラスチックと、リサイクルが困難な加工された古紙を原料にして作られる固形燃料（RPF）を製造することにより、産業廃棄物の削減・新たな燃料の製造を行う。



RPF工場

基本情報

代表地方公共団体	兵庫県神崎郡市川町屋形
代表民間団体	株式会社アルファ
他の連携団体等	日本RPF工業会
カテゴリ	廃棄物（ゴミ）対策
事業費	
めざすSDGsゴール	
事業化までの期間	2018年から2021年3月。3年、

取組内容



RPF工場設備

この取組で解決した課題	従来の廃棄物処理は、分別を行いリサイクルを行っていたが、主に産業廃棄物のプラスチックと、リサイクルが困難な加工された古紙については、焼却・埋立処分を行っているのが現状。環境維持の観点より、分別を細分化しリサイクル率の向上により、産業廃棄物の削減・再資源化を行うことに、環境維持に貢献している。
解決に向けた手法	RPF工場を新設が必要であり、兵庫県神崎郡市川町屋形にひょうご産業活性化センターより工場用地の紹介を受け、同地区にて処理工場新設が可能であるか調査を行い、屋形地区の住民にも事業内容の説明会を行い、同意を得て竣工となった。当初より竣工まで3年かかった。

取組詳細

事業推進上の各団体の役割分担	
地域関係者との連携方法	設備新設の伴う兵庫県神崎郡市川町屋形地区の同意。地域汚染・騒音対策等十分に説明した。また、工場稼働が軌道に乗れば地元雇用についても説明し理解をえた。
資金調達方法	メインバンクよりの銀行資金調達・銀行関連会社リース会社よりの調達。
資金調達方法の補足	
事業推進上の課題・工夫	工場用地の選定（アクセスの問題：同社他事業所との利便性・他社よりの受け入れ） 原料となる廃棄物の分別基準の細分化。 RPF燃料製造における配合比率。

担当者のコメント

優良事例応募項目

取組のポイント（3つの視点）	①地方創生SDGsの視点 住み続けられるまちづくりを目指し、産業廃棄物の削減とRPF燃料の製造により再資源化を行う。 ②ステークホルダーとの連携 市川町屋形地区の住民、金融機関の支援を得て、RPF事業部を立ち上げた。 ③モデル性・波及性 新たな産業廃棄物処理工場の設備投資、RPF燃料の熱量等の需要に応えるべく、日本RPF工業会との情報共有による配合技術の習得を行い技術力を蓄積する。
----------------	---